

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援まるっときっず（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～	令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	公認心理師、長い経験のある保育士、社会福祉士を配置しており、専門職がそれぞれの立場で専門的なサービスを提供することができる。	全職員が参加する朝礼で、その日の支援内容や課題について話し合いをしている。また個々の児童の気になる点や支援についての課題を確認して、次の活動へつなげるよう取り組んでいる。	児発管のもと、着眼点を明確にし、全職員が同じ方向を向いて、質の良い支援やサービスを提供できるよう取り組んでいきたい。
2	保護者や利用児童の希望を取り入れ、課題などを個別に合わせて準備している。	モニタリング時にお伺いした支援に対する希望を活動に取り入れられたり、利用児童の興味のあることや好きなことを支援内容に取り入れて、楽しく活動できるよう計画している。	他の児童が取り組んでいる活動も一緒にやってみよう声かけをする、興味を持ってたりできるように工夫するなど、活動の幅を広げていきたいと考える。
3	保育所等訪問支援と連携して、園・保護者と密に連絡を取り合い、個別の支援に反映することができる。	保育所等訪問支援員も朝礼に参加し、利用児童の様子を職員全体に共有している。訪問に行っていない児童に関しては気になる点があれば保護者と連絡を取り、支援に反映するようにしている。	気になる点は、保護者だけでなく園にも連絡を取って連携を図っていけたらと思う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携が弱い	開所して1年経過していないため、地域との交流がまだまだできていないのが現状である。	日ごろから地域との関わりを大切にして関係を深めながら、連携できることを検討していく。
2	保護者からの相談などには個別に対応しているが、事業所からそのような対応をしているという情報発信が少なく、十分な家族支援が行えていない。	送迎時などにお会いすることが少ない保護者様とは、お話をする機会があまりないのが現状である。	活動時に気がついたことなどを中心に保護者様に連絡を取ることを継続して取り組む。また子育て支援についての情報がある場合などは、SNSやHP、お便りで積極的に発信していく。
3	事業所が交通量の多い道路の目の前のため、安全面の配慮が必要である。	送迎時や出入りの際に、子どもの飛び出し防止や見守り体制の強化が求められる環境である。	安全に出入りができるよう、職員間で送迎時の役割分担や見守り体制を整える。